

博士課程教育リーディングプログラム 平成29年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成23年度		
機関名	慶應義塾大学	全体責任者（学長）	長谷山 彰
類型	オールラウンド型	プログラム責任者	青山 藤詞郎
整理番号	A03	プログラムコーディネーター	神成 文彦
プログラム名称	超成熟社会発展のサイエンス		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

本プログラムは、平成23年度から平成29年度の7年間に亘って、今後日本と世界が直面する超成熟社会を持続的に発展させるという21世紀の人類共通の課題に取り組むリーダーの資質を養成するため、理工学、医科学、政策・社会科学に亘って文理融合した、主専攻修士・副専攻修士・博士(MMD)による5年一貫の教育システムを構築することを目的とする。骨太の専門に加え独創的な企画力と高いマネジメント力を持つ博士リーダー人材の輩出を目指す。分野横断的な複合課題へ柔軟に対応できる大学院への組織改革や、21世紀COE、G-COE等26件の拠点形成型プログラムにより、ここ10年間で充実させてきた大学院の高度人材育成プラットフォームを持続的にさらに発展させ、今後の大学院改革のパイロットプログラムとするべく、本プログラムでは文理を横断した大学院研究科と外部産官との教育コンソーシアムが共鳴して博士人材育成とそのキャリア形成を進めるという、従来にない野心的な取り組みを展開する。

2. プログラムの進捗状況

本年度は、学生（RA）採用から6年目の年度に該当し、10の研究科から47名（主専攻修士19名、副専攻修士10名、ダブルディグリー（DD）生2名、博士16名）が所属し（平成29年度10月1日時点）、ダブルメジャーによる文理融合と、産業界・行政体との密な連携による教育環境下で育った9名が、1期生9名に続いて社会へ巣立ち、新しい大学院教育の1つの形を確立することができた。平成28年度に修了した9名は、産業界営業・企業戦略部門等で新しいスタートを切り、就職先から高い評価を得た。2年間で早期博士課程修了を目指した8名は博士論文完成に向け取り組み、5年間の集大成として政策提言論文を執筆し、2月26日に文部科学省にて発表した。その内1名は、社会学研究科において本学では初めて早期修了を達成した。QEを通過した7名は博士課程に進み、欧米等へ6か月間の短期留学をし、博士論文の重要な構成要素となる研究成果を上げた。副専攻に進学した10名とDD生2名は、全

員2つ目の修士号を取得した。主専攻修士2年生は、主専攻の修士論文完成に取り組むとともに、副専攻研究科の科目先取りやゼミ参加を進め、副専攻への入学を許可された。その内1名は、主専攻の修士号を1年半で早期修了し主専攻博士課程へ進学した。主専攻修士1年生は、2～3月に米国のNPO、中小企業等にインターンシップに派遣され、高く評価された。

4月にLund大学Eva Wiberg副学長、工学部長、理学部長を招聘してプログラム実施状況を視察いただき、高い評価を得た。夏・冬キャンプにはメンターと教員、修了生も参加し、RAのチーム活動や英語プレゼンテーション能力向上に取り組んだ。Newsletterを5回発行、パンフレット更新、ホームページや動画のリニューアル、「リーディングプログラム7年間の軌跡」の出版等を介して本プログラムの活動を広く広報し、優秀な学生の応募や出口戦略に資する活動に取り組んだ。3月22日に新しい産学連携のあり方を議論するシンポジウムを開催し、産業界を中心に100名を超える参加者を集め、学生との意見交換会を実施した。本プログラムは、概ね計画通り進捗できたものと考えている。